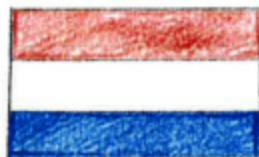
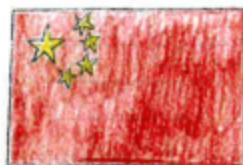




国際感覚を身に付けよう



3-B



目次

I.導入(調査動機…興味を持ったこと、理由など)

II.通説(調べる対象の研究や概要・多数意見や少數意見など)

III.自分の意見(調査してわかったこと・考えたこと)

IV.考察(調査してわかった課題・疑問に思ったことなど)

V.参考文献

I. 導入

〈調査動機〉

- ・日本と海外の文化の違い(日本にしかない特有の文化)
→日本に訪れた外国人の方などからテレビで「日本に来て驚いたことなど」と話をしていたのを思い出した。私たちが生活している中で当たり前だと感じていることが海外では珍しいことはないかと思ったから。
- ・外國で「苦労せずに生活していくためにはどうすればいいか。
→7月の下旬から行くカナダにも向けて、カナダなどの海外の生活についても早く慣れていくためにはどうすればよいのだろうと不思議に思ったから。
- ・海外から日本に取り入れられた文化はどのようなものがあるか。
→私たちが何気なく生活している中でも、海外から日本に取り入れられた文化たくさんあるのではないかと思ったから。
- ・日本から海外に広まっている文化はどのようなものがあるのか。
→海外から日本に取り入れられた文化とは逆に、日本から海外に広まっている文化には日常生活の中でどのようないいものがあるのか気にはなったから。

II. 通説

1. 日本にしかない特有の文化について

・街のきれいさ

日本だけとは限らないかもしれないが、路上にゴミ箱がないにも関わらず、街の中はとてもきれいだ。こんな国はないのか? また、路上にもしゴミ箱が無かったら海外では、主の山がされているかもしれない。
日本人の人格などもこのくらい所に表れているのかかもしれない。そして、捨てるはいけないという日本人の正義感がよく表れている場面だ。



・駐車の仕方

日本人はたいてい、駐車場にパック駐車をする。これは単純に、海外でパック駐車をする習慣があまりなく、パック駐車の安全性に日本に来てから気づいたという外国人も多い。海外に行くと、ヨーロッパなどでは自動車が縦一列に駐車されて、車椅子がよく浮かぶ。確かに縦1列や正面駐車などして駐車するよりかは、圧倒的に安い感がある。



・正座

「正座」は日本にしか無い習慣があり、ここで成立する伝統文化の一つ。冠婚葬祭の中で地面に座る際はこの正座が大切なことの一つ。「正しい姿勢が大事だ」と見われている柔道や空手などの格闘技などによく使われる、最も日本らしいポーズだ。

海外から来た人たちからすると、足がすぐしひれてこんな座り方、お見掛けという考え方や、逆に礼儀よく日本らしいという考え方など様々な意見がある。



・銭湯

今では何気なく、当たり前のように家の風呂を利用しているが、少し前までは、銭湯までわざわざ行き、お風呂に入るのが普通だった。今でもよく見かけるのは昔ながらの日本の伝統的な文化として今まで全国に残っている。銭湯は人々にとってのオアシスであり、コミュニケーションをとるために大切な場である。

しかし、外国人にとってはこのような場所が少ないので羨ましい部分もあるのかかもしれない。



・食べ歩きの飲食

歩きながら食べたり飲んだりする行為は西洋から入ってきた文化で確かに便利だ。祭りや花火大会など、屋台文化の中では日本でも広く行われているが、海外人にしても一般的に「下品」と見下される行為。海外などに行き食べ歩きなどは、街中ではやるべきではない。
人前で、ましてや食べ歩きや電車の中で飲食したりするなんて信じられないことになる。



・時間に対する正確さ

日本では、ありえないほど時間に正確な公共交通機関を提供している。どこか電車でも平均的な誤差は数十分程度。

おかげで、たった2~3分ほどの数分の遅れで「遅れてしまい申し訳ない」という謝罪のアナウンスも車内によく流れている。

イドでは電車などの数分の遅れなどはとても当たり前にこと。もちろん車内アナウンスで謝ることもなければ、イド人にとってもごく普通のことなのである。もし私たち日本人が行けば、あまりにも時間にリーズすぎで嫌になってしまふかもしれません。



私たちがよく当たり前のように行動している行動や生活習慣が外国人たちにとっては「下品」に感じてしまったり、驚きの印象を与えるようになることもある。そのため、私たち日本人がこの感覚のまま海外に行ってしまうと、「日本人」というものに悪いイメージを与えててしまうたり、少し浮いてしまうと恥ずかしい思いをしてしまう可能性があるので注意が必要だ。

2. 外国で苦労せずに生活していくためには

・日本人のイメージは寿司

日本=寿司 というイメージが定着し、寿司が世界に浸透していくのはとても良いことだが、一方で寿司のイメージが定着しきっているため外国人たちは日本人は「肉を食べない」と見われているのが現実だ。日本人は魚と野菜しか食べないと見られているようだ。



今の国々の国の料理のイメージは様々だが、見ているほどそのイメージしたものはその国の中で重要視されてしまうからアリする。

そのため、日本もイメージを変えられるように全体で「イメージを変化」を変えられるように、日本人自体も偏見を持ったりするのはやめるべきだ。そして、海外に行ったら常に生活していくために、日本のイメージをそのまま持ちこまない為に何か政策をするべきだ。



・言葉の壁

英語を世界の共通言語 いうことをいい事にして、どこにでも通じどこで暮らせると、いつ風に吹いていても日本人が多數いるが、全くそんなことはなく、実際に行くと苦労することが多い。海外転勤などをする場合、言語に自信が持てない場合は無理に使おうとせず、自分自身が話すことができる言語で話した方が馬鹿にされたり、自分が自身の負担も小さくなる。

日本全体では今、学校教育の場面で「国際社会で生き抜く」いくため、「英語を話せる」ということが当たり前の必須になっている。



・日本人の体格

日本人は世界の中では「身長が小さく小柄」という人が多い國である。小柄な日本人女性、例えば「身長150cm代の人が、背の高い西洋人の国に引越しの場合、分厚いコートなど丈を調整するのが難しい衣類は、日本からの持参がおすすめだ。なぜなら、日本人のようなくせ小柄な人用の衣類が無く、海外ではなかなか扱ってない。」それは、西洋の国ほどに行くと大人用の服のサイズが大きすぎで、子供用の服を試着するような人もいるくらいだ。



・どこへ行くか中国人

アジア以外の国に行くと日本人によくあるのが、旅行先の現地に中国人の旅行人がたくさんいる。見た目が「目が大きい細長い」と指を横にして引張ったようないわゆる「狐の目」をしているのが、アジア人よりでは特徴的だ。そのため、中国人はよく日本人と中国人を間違えるようだ。西洋に行くと仲間だと見つ、「ニハオ!」など声をかけてくることがあるが、いかずには気軽に話しかけることも大切だ。



3. 国際感覚とは? ~海外から日本に取り入れられた文化と日本から海外に広めた文化を知る前に~

国^外のさまざまな文化や価値観を知り、自国内に限らず観点には多くの国^{際的}な観点からものを見ることができる感覚。また、自国の尊識にとらわれず、より広い価値観や考え方で物事を捉えるセンスのこと。

↓国際感覚を身につけることはよし。



①文化の違い、価値観、考え方の違いを理解できる。

②多面的、多角的な物の見方や考え方ができる。

③相手国の良さを認めると共に、自分のいいところの良さをとらえている。

④相手に自分の考えや気持ちを伝えるコミュニケーションの方法を知っている。

(ジスマーケ等による非言語活動(会話)。

4. 海外から日本に取り入れられた文化

~食べ物編~

・天ぷら

外国でも日本語のまま、"tempura"と呼ばれるほど外国人が知っている日本語としてイメージが強いが、この天ぷらも元々はポルトガル伝来のフリットと揚げ物料理だと言われている。

諸説様々あるが、当時日本に来てたポルトガル人がフリットを作った時に日本人がそれは何だと聞いてたら、ポルトガル人が "Temperar" = 料理をしていると答えたのを日本人が料理名だと勘違いして「テンペラ」という名前になったと言われている。

あくまで見よう見まねで作ったものが、日本独自の料理となり、現在の天ぷらは日本製。



・ポン酢

このポン酢は元々はオランダの "pons" が元となる言葉と言われている。さらに、"pons" 自体も "punch" (ポンチ) という言葉が元々の起源。
"punch" というと「フルーツ」や「果汁」の「ポンチ」のイメージが強いが、その名の通り元々は果汁が入ったお酒だった。日本でも元々料理用に伝わってきたのだが、やがて甘酸っぱい味の総称となり、現在では一般的にポン酢醤油のことと「ポン酢」と呼ぶようになつた。



・豆腐

多くの料理で使用される豆腐だが、実は中国から伝來したもの。
諸説は様々あるが、高野山の豆腐が日本に伝えられたと言われている。
また、江戸時代に一気に国民食となり豆腐は基本的に木綿豆腐だったと言われている。綾ごし豆腐を最初に売った店が今でも親しまれている。



~習慣編~

・花火

日本の古来の伝統技術という認識が強く、外国から来た例（イギリス）よりもいかにもいけない。室町時代の『徒然記』に中国人が行ったりと記述があるほど古い歴史だ。

その後、鉄砲伝来などにより火薬製造の技術が広まる。これから、江戸時代に戦乱が始まってからは、花火の専門業者とともに現れたりした。1648年にはあまりにも花火の人気がすごいため、幕府が『西田川以外』の花火禁止についたり歴史もあるほどだ。この歴史が現在の『西田川花火大会』につながった。



・セブンイレブン

日本を代表するコンビニエンスストアとして有名なセブンイレブン。の本拠地実はアメリカのテキサス州オーラム市で誕生した。しかしアメリカ南部の小さな商店から始まり、今のような大手コンビニエンスストアまで成長した。1973年に日本のイトヨーカーがライセンス契約を結んだが、1991年にアメリカのセブンイレブンが営業破綻をしてしまい、イトヨーカーは買収され、ことより日本の企業となりた。



・桜

今では3月～4月にかけて花見のシーズンとする桜。実はこれは、日中韓の3ヶ国で論議争っている問題。今ひとつうるさいとされているのは、「中国が原産で日本で発展し、韓国は関係ない」という説。

ヒマラヤの山脈地域から、桜の原種が日本に伝わり、日本で様々な交配が行われて一気に種類が増えた。

現在日本にある桜のほとんどは人工的に交配された種であり、以前は江戸時代に生まれたと言われている。



海外から日本に伝わり、食べ物や習慣などを見てみると、ほとんどのが日本へ近い東アジアの中国や韓国などから取り入れられていて、日本がそれらの文化を独自にレンジして、現在に至っているものが大多。その分、東アジアなどの地域と日本が対立している問題たり、てしまうケースも起つことがある。私たちが何気なく日本で利用しているものが、意外と海外の発祥だったりする、とかなり多い。

5. 日本から海外に広めた文化

~食べ物編~

○インスタントラーメン

「即席麺」と呼ばれていたとするインスタントラーメン。今では世界国外における「ラーメン」というものは、これら即席麺を調理した料理であることが多い。

黎明したのは日清食品の創業者安藤百福さんとされている。また誰しもが知る牛丼ラーメンが「アーチストライプ」としている即席麺、としては世界初のインスタントラーメン。

このように技術がありこそ、日本生まれの食品として世界で人気があるに至りました。



○ナポリタン

パスタやスパゲッティなどは海外のイメージが強いため、ナポリタンこそ何のでは?という感じがするが、ナポリタンは日本生まれの食べ物。ホテルニューグランド2代目総料理長の入江茂也が、アメリカの兵士が茹で干しスパゲッティに塩、胡椒、トマトソースを和えた物を食べていいふのを見て、トマトを加えて生み出した料理。

今までナポリタ、飛祥のお店であるセントラルビル、というお店がナポリタンのお店では圧倒的な人気を誇っている。



○冷やし中華

夏に日本ではよく食べられている冷やし中華。「中華」という言葉が入っているから、中国生まれたと思われるがちだが、実は日本生まれ。元祖と言わされる仙台の「涼拌麺」で初代店主の四倉義雄が、暑い夏でもさっぱり食べられるものを、として考案されたのがこの冷やし中華だった。ちなみに昭和12年に考案され、現在では日本だけではなく、海外でも食べられている所がある。



~習慣編~

○炊飯器

日本の主食と言えばお米。最近では欧米化が進み、パンを主食とする家庭が多くはないが、やっぱり日本は米が主食。そして今ではこの炊飯器がお米を主食とする世界各国でも製造されるようになつた。

日本の炊飯器は世界で製造させるだけでなく、その機能性の高さから日本の炊飯器までに美味しく炊くことができる炊飯器はない。そのため、日本にわざわざ日本の炊飯器を買ったり来る外国人が大量に買って行く「爆買」なども流行った。それで日本製の炊飯器が人気だということが分かる。



①カラオケ

日本生まれの文化であり、世界各国でもそのまゝの“カラオケ”という言葉で親しまれている。しかし、世界各国にあるカラオケは一つ一つ個室のボックスタイプではなく、飲食店の娛樂の一つとして集められている。

これから日本のカラオケのよう：防音設備などが整ったカラオケボックスというものが世界で普及していくのは、今よりもっと盛り上がりてくれるかもしれません。



②乾電池

様々な場面で活躍してくれる乾電池。これは日本で初めて飛行機に搭載されたもの。

日本の時計技師である~~屋井先藏~~が、従来から使用していた小型電池の性能に不満を持ち、機能をもと上げたいという願いから時計用小型電池の屋井式乾電池を作ったのが始まりだと言われている。

その後、様々な改良を経て現在の同様形の乾電池までいった。



III. 自分の意見

普段何気なく取っている行動が外国人にとっては下品で“ありえない行動”“オーバルフ”、国によって価値観や感覚が様々です。また、ほとんどの国が日本に対して少し異なったイメージや偏見を持っていましたので改善していく必要があります。しかし、私たち日本人は自分が勝手なイメージを持ってたりする部分があるなど気が付いた。このようにどこか実際にあるということを踏まえた上で、私たちは海外に旅行したりする必要があるなど思います。

そして日本独自の文化だと多くの人が使っている物が東洋の中国(近所の国)から取り入れられていました。そのためオーバルフして影響力がとても大きくなっています。他にしても日本は世界のものが世界各国に大きな影響を与えており、日本の機能性が試されているなど考えられます。

IV. 考察

日本に対して勝手なイメージが持たれてしまっているのはどうしてかという疑問がとても大きいと思います。このことに対して、私は日本と他の国に対して勝手なイメージや偏見を持っているため、自分たちがちに付いてしまっているのではないかという課題があると思います。そして、これから日本を取り入れていく様々な文化も積極的に日本がアレンジして、偏見を無くしていく必要があります。7月の下旬から行くカナダの語学研修などで海外の利点と弱点を自分で受け入れ使いながらで行けば、海外で生活して困ることは少なくて済むだろうし、むしろは活かすにはいくのではないかと考えました。

V. 参考文献

- https://www.buzzfeed.com/jp/kylarhan/japan-weird-things?utm_term=.jsg2J605x#.ybvpV8grv
- <https://www.google.co.jp/amp/s/www.spintheearth.net/travel-living-abroad/>
- <https://www.google.co.jp/amp/s/www.weblio.jp/content/amp/%E5%9B%BD%E6%8D%A2>
- www.ytg.janis.or.jp/~maikisyo/kokusai/kankaku.html
- <https://www.google.co.jp/amp/s/sirabee.com/2014/10/17/5220/amp/>
- athena-minerva.net/seikatsu/2384/
- <https://matome.naver.jp/m/cdai/2146794427698761801>
- kurokurokenken.com/mk-from-japan